

ツアー参加者の松本さん(左)と伝承料理でもてなす朝倉さん(右)は同年代。1年ぶりの再会を喜び合う。



旅ゆけば、隣人。

第22回 コンシェルジュ

安野敏彦さん

福井市観光アドバイザー

福井市の市街地から車で20分ほどの場所でありながら、戦国時代の城下町の遺跡、手つかずの自然と人々の暮らしが残る「乗谷」。地元の人が伝承料理でもてなしたのは、遠く離れた東京の隣人たちでした。

photographs by Masaya Tanaka text by Yasuko Murata

東 京から飛行機とバスを乗り継いでやってきた17名のグループ。福井市の一乗谷朝倉遺跡をめぐるツアーに参加した人たちだ。一乗谷に到着すると、「お久しぶり!」「お元気でしたか!」といった感嘆の声が聞こえてくる。このツアーは、1年前の同じ時期にも開催されており、第2回目となる今回はリピーターの姿も。昨年参加した人は、すでに地元

の人と顔見知りというわけだ。ツアーでは、福井と東京の人が一緒にあって、地元の人がつくった伝承料理を味わいながら、交流を楽しむ「隣人祭り」が開催される。観光するだけではなく、地元の食や人や歴史と深く関わることで、できる旅行として注目を集めているのだ。「一乗谷は戦国大名、朝倉義景が治めた城下町で、その跡が完全な形で発掘され

東京のお隣さん
一乗谷へ
ようこそ!



Lohas Club

Since 2010



左上／一乗谷遺跡に立つ唐門は、豊臣秀吉が朝倉義景の菩提を弔うために寄進したものと伝えられている。右上／1週間も前から山に入り山菜を摘み、数日前から調理をはじめたという伝承料理がふるまわれた。左下／料理を一緒に食べて、会話を楽しみ交流を深める。右下／ツアー参加者を温かい笑顔で迎える。

ています。貴重な遺跡に加え、豊かな自然が残る風光明媚な場所ですから、地元の人や食も含めたありのままの姿を、福井市の新たな魅力として紹介したいと考えました」とは、ツアーを企画した福井

市観光アドバイザーの安野敏彦さん。昨年の参加者からは「地元の人のもてなしが嬉しかった」、地元の人からは「郷土の文化を見直すきっかけになった」と双方から好評を博し、2回目を主催すること



左／大豆をペーストにして味噌汁に入れる「呉汁」は、福井市の郷土料理。右上／山菜や野菜を中心とした13品の料理が並ぶお膳。しみじみと美味しい忘れられない味。左下／会場の一乗ふるさと交流館の土間に干されていた手づくりのかき餅も、お土産として配られた。



隣人祭りでもてなされる伝承料理は、朝倉義景が京都から足利義昭を招いたときに供された「17の祝い膳」の一部を、地

になった。
元的女性10人による一乗ふるさと料理クラブが、試行錯誤の末に再現したもの。古い文献を参考に、地元で採れる食材を使って、丹精込めてつくられた料理だ。84歳という代表の朝倉喜美子さんを筆頭に、70〜50代のメンバーは明るくて元気いっぱい。ツアー参加者は、彼女たちと一緒に車座になって、料理を味わいながら、会話を楽しみ、笑い合い、今年の隣人祭りのひとときも大いに盛り上がった。「この味をもう一度食べたくて……」と昨年に続き参加した81歳の松本二三子さんと65歳の有住昌子さんは、東京で刺繍の先生をしている。有住さんは、「同世代の女性たちが一生懸命地域のために頑張っている姿を見て、とても励まされました。もう一度、みなさんにお会いしたい」と思って今年も参加したんです。
1年ぶりの再会を果たし、嬉しそうに会話を続ける同年代の松本さんと朝倉さん。80歳を超えても現役として頑張っているお二人には、住む場所や環境はちがっても、お互いに共感できる思いがあるようだ。遠く距離を超えて人と人がつながる。それは、隣人祭りが起こした小さな奇跡なのかもしれない。

la fête des voisins 隣人祭り

今年も新宿御苑で
隣人祭りイベントを
開催しました!

2010年5月13日(木)から15日(日)に新宿御苑で開催された『ロハスデザインアワード』展内にて、今年も隣人祭りのイベントを開催しました。今回は前回までと趣向を変え、来園者同士を「お隣さん」に見立て、手食カレー試食会や絵てがみワークショップを実施。保育園の子供たちと保護者による「こども隣人祭り」も同じ新宿御苑で開催するなど、顔の見える距離で一緒にいる時間づくりを提案しました。

コンシェルジュ募集中!

「隣人祭り」日本支部

〒104-0045
東京都中央区築地7-12-7築地FTSビル5階
一般社団法人ロハスクラブ内
tel.03-3549-1865
fax.03-3549-1013
http://www.rinjinmatsuri.jp/